中小製造業4社の持株会社

RCホールディングスの経営方針

上野　翼社長に聞く

中小製造業4社を傘下に置くRCホールディングス（RCHD、本社・東京都千代田区）は、グループ企業の技術改良やシナジー発揮で成長を目指している。航空・宇宙市場を中心とした事業領域もグループ会社の増加とともに幅が広がっている。上野翼社長にグループ経営の方針を聞いた。

（遊佐　鉄平）

合議制でシナジー追求

金属事業　加工から組立まで一貫対応

――2022年1月の持株会社化から1年が経過します。改めて御社の特徴を。

「当社はアルマイト事業を手掛ける理研アルマイト工業（川崎市）が21年11月に、粉体製造や保護被膜シールピールを製造する関東化学工業（東京都千代田区）を買収した後に現在の持株会社体制とした。その後22年6月に歯車製造の都精機（東京都三鷹市）、23年2月に金属加工のサンエー（山形市）をグループに迎え、現在4社で事業運営しています」

「グローバル化を背景とした競争環境の激化や事業承継がスムーズにいかないために、高い技術力が失われているケースも見受けられます。また私は銀行出身ですが、行員の当時から経営資源が乏しい中小企業が単体では経営改善に取り組めない姿を目の当たりにしてきました。こうした現実に対し、単体では難しくともグループとしてまとまることで成長は可能だと信じています。事業承継が困難な中小企業の受け皿になり、技術力を高めていくことも我々の役割だと思っています」

――定量的な経営目標は。

「規模を追っているわけではないので、あえて年商など経営数値は開示していません。これまでM&Aで規模を拡大しているわけですが、M&Aはあくまで受け身の姿勢です。事業規模にとらわれず、高い付加価値を提供できる企業にしていきたいと考えています」

――グループ経営で御社の特徴は。

「買収した企業の取締役を持株会社の取締役または顧問として迎え入れています。持株会社と事業会社を兼務する担当役員制とし、トップダウンの経営ではなく合議制での運営を心掛けています」

――価値観の異なる企業が集まることの難しさは。

「価値観の統一については、異なる立場での対応にならないことが重要です。一緒のグループ、企業をサポートさせてもらうという気持ちを持ちながら徐々に融合していければと思っています。ガバナンスもルールを明確化し、しっかりコミュニケーションを取れば問題にはならないでしょう」

――今後のM&Aの展望は。

「我々がお手伝いさせていただくに当たっては①製造業②経営者が65歳以上③買収後も元取締役に在籍いただく④ニッチな商材を保有している―を判断基準としています。事業承継の受け皿会社として、お話があればタイムリーにうかがいたいと思っています」

――グループ4社のそれぞれの課題や展望は。

「理研アルマイト工業はアルマイト・鍍金だけでなく、切断や塗装といった前・後工程の内製化で付加価値を高めたい。関東化学工業はシールピールについて特殊機能を持ったコーティング技術の開発を目指します。都精機は設備の自動化に取り組み、サンエーはステンレス加工に特化しているのでアルミの比率向上も視野に入れたいと思っています」

「グループのシナジーも課題の一つです。金属では4社で加工から表面処理、セミアセンブリ（組み立て）まで対応できるようになりました。現在は半導体製造装置部品市場でのビジネス獲得を目指しています」

――足元では素材やエネルギー価格が上昇しています。

「アルミなどの素材価格上昇についてはおおよそ転嫁できている状況ですが、エネルギー価格部分はまだ昨年上昇分を交渉している最中。今年も一段高となる見込みのため、改定交渉は続けていかねばならないでしょう」

欧州の22年アルミ箔需要

微増の97万1300トン

欧州アルミ箔協会

欧州アルミ箔協会（EAFA）はこのほど、2022年の欧州域内アルミ箔需要量が前年比0・4%増の97万1300トンだったと発表した。ウクライナ情勢の不透明感やエネルギーコストの上昇にもかかわらず、域内市場と輸出向けのいずれも出荷が回復した。

軟包装や家庭用アルミホイルに利用される薄型ゲージの生産量は、パッケージコンバーター需要の拡大で1・5%増だった。一方で。自動車用電池材や硬質容器などに利用される厚物ゲージは、自動車や建設需要の停滞を映して1・4%減だった。輸出向けは22年初めに29%減と大幅な減少を記録したが、その後徐々に回復して年間では1・9%減だった。

2月のアルミ電線出荷

5割増、2200トン

電力向けなど増加

日本電線工業会は2月のアルミ電線の出荷統計（推定値）を発表した。各分野の合計量は2200トンで前年同月比50・4%増。主力の電力向けをはじめとして、全3分野が前年超えした。プラス幅は前月から拡大している。

分野別の動向は鉄塔に敷設する架空送電線など電力向けが1500トンで同52・6%増。2カ月連続での前年超えとなっており、プラス幅は前月から拡大した。その他内需向けは600トンで25・5%増。2カ月ぶりに前年同月の水準を上回った。前年同期は2トンだった輸出向けは、100トンに拡大。9カ月ぶりにプラスへと転じている。

世界の2月アルミ生産

3.5%増、513万1000トン

国際アルミニウム協会（IAI）によると、2月の世界アルミニウム生産量は前年同月比3・5%増の513万1千トン（未報告の推定生産量14万2千トンを除く）だった。

地域別生産量は、中国が5・5%増の310万7千トン、中国を除くアジアが1・1%増の35万9千トン、中東が1・5%増の46万9千トン、オセアニアが0・7%減の14万4千トン、ロシア・東欧が1・3%減の31万トン、西欧が9・1%減の20万9千トン、北米が0・3%増の29万2千トン、南米が22%増の11万1千トン、アフリカが5・7%増の13万トンだった。

1月の光製品出荷

13%増、402万キロメートルコア

日本電線工業会は1月の光製品の出荷統計をまとめた。各分野の合計量は402万2285キロメートルコアで、前年同月比13・1%増だった。通信向けが前年割れしたものの、主力の輸出向けがけん引するなどして、2カ月連続で前年同月の水準を上回った。

光製品は光ファイバや光ケーブル、光通信関連部品などで構成されている。

分野別の動向は輸出向けが353万2486キロメートルコアで同13・9%増。通信向けは19万2121キロメートルコアで同12・8%減となった。電力向けについては4万6245キロメートルコアで同90・7%増。その他内需向けについては25万1433キロメートルコアで同19・9%増だった。

22年最終益

27%減、809億円

チャルコ

中国の国営アルミ大手である中国鋁業（チャルコ）の2022年決算は売上高2909億8800万元（前年比2・6%減）、最終利益41億9千万元（約808億7千万円、同27・2%減）だった。アルミの販売環境が悪化したため、10～12月期は赤字決算だった。通期の製品生産量はアルミナが1764万トン（同0・6%増）、アルミ新地金が688万トン（同8・0%増）でいずれも増加した。

海外非鉄週況

銅、金融市場の混乱警戒

（3月13～17日）

【ロンドン時事】来週のロンドン金属取引所（LME）の銅相場は、金融市場の混乱を警戒しながら神経質な展開となりそうだ。金融システム不安がさらに拡大すれば、リスク回避ムードが強まり、相場を下押しすることになる。

21～22日に開かれる米連邦公開市場委員会（FOMC）の結果にも注目が集まる。

CMEグループのフェドウオッチによると、市場では0・25%の利上げ予想が大勢。結果を受けてドルが上昇すれば、銅の割高感が高まり、下落要因となる。

23日にはスイス国立銀行や英イングランド銀行の金融政策も発表される。

今週は、欧米の金融混乱を受け、投資家のリスク志向が後退し、軟調に推移した。ただ、中国人民銀行が景気を下支えするため預金準備率の引き下げを発表したことを好感し、週末17日は上昇した。

週間では3%下落した。

豪州のアルミ製錬所で減産

米アルコア

米国アルミ大手アルコアが運営するオーストラリアのポートランドのアルミ製錬所は今月から減産を開始する。年間生産能力は35万8千トンで、生産能力の25%まで稼働を引き下げる。炉に送電するのに必要な電極部品の生産が足元で不安定であることが影響した。

ワシントン州のアルミ製錬所閉鎖

米アルコア

米国のアルミ大手アルコアはこのほど、2020年から操業を休止していたワシントン州のインタルコ製錬所を閉鎖すると発表した。閉鎖を決めた理由として、長期的な視点から同製錬所は競争力が乏しいことを挙げた。年間生産能力は27万9千トンだった。

アルコアの世界生産能力は閉鎖によって269万トンとなる。米国内においては39万9千トンとなった。

決算には23年から影響し、3年間で8500万ドルの支出が生じる予定。

跡地は天然ガスなどを扱うアルタガスが保有する。

LME週間推移

現物・3カ月先物とも前場終値＝公式価格

単位：トン当たりドル、日付はロンドン現地時間

【2023年3月13～17日】

		現物		3カ月先物		確定出来高
		【買値】	【売値】	【買値】	【売値】	
銅（グレードA）	13日	8,650.00	8,651.00	8,666.00	8,667.00	243,783
	14日	8,903.00	8,905.00	8,903.50	8,904.00	143,089
	15日	8,520.00	8,525.00	8,550.00	8,555.00	236,640
	16日	8,530.00	8,535.00	8,536.00	8,537.00	147,738
	17日	8,620.00	8,621.00	8,620.00	8,625.00	109,633
錫	13日	22,850.00	22,900.00	22,950.00	23,000.00	6,569
	14日	22,500.00	22,550.00	22,865.00	22,885.00	5,604
	15日	22,625.00	22,675.00	22,750.00	22,800.00	3,403
	16日	22,175.00	22,225.00	22,200.00	22,250.00	4,733
	17日	22,335.00	22,435.00	22,475.00	22,500.00	3,684
鉛	13日	2,062.00	2,063.00	2,068.00	2,070.00	69,157
	14日	2,098.00	2,099.00	2,099.00	2,100.00	57,394
	15日	2,077.00	2,079.00	2,083.00	2,084.00	62,866
	16日	2,053.00	2,055.00	2,062.00	2,064.00	54,247
	17日	2,066.50	2,067.50	2,068.00	2,069.00	49,232
亜鉛SHG	13日	2,904.00	2,905.00	2,882.00	2,884.00	119,596
	14日	2,952.00	2,954.00	2,937.00	2,938.00	99,561
	15日	2,864.00	2,864.50	2,846.00	2,847.00	81,542
	16日	2,862.00	2,864.00	2,850.00	2,852.00	58,078
	17日	2,932.00	2,933.00	2,903.00	2,905.00	67,663
ニッケル	13日	22,575.00	22,625.00	22,925.00	22,950.00	43,889
	14日	23,250.00	23,255.00	23,575.00	23,600.00	34,259
	15日	22,700.00	22,750.00	22,950.00	22,960.00	23,470
	16日	22,600.00	22,650.00	22,860.00	22,865.00	33,418
	17日	23,200.00	23,210.00	23,540.00	23,550.00	26,184
アルミHG	13日	2,235.50	2,236.50	2,286.00	2,287.00	326,799
	14日	2,271.00	2,272.00	2,320.00	2,321.00	197,102
	15日	2,245.00	2,246.00	2,295.00	2,295.50	261,604
	16日	2,237.00	2,237.50	2,286.00	2,287.00	171,420
	17日	2,230.00	2,232.00	2,279.00	2,280.00	154,325
アルミ二次合金	13日	2,083.00	2,093.00	2,140.00	2,150.00	0
	14日	2,083.00	2,093.00	2,140.00	2,150.00	0
	15日	1,940.00	1,950.00	1,997.00	2,007.00	0
	16日	1,945.00	1,955.00	1,997.00	2,007.00	0
	17日	1,946.00	1,956.00	1,997.00	2,007.00	0
北米特殊アルミ二次合金NASAAC	13日	2,330.00	2,340.00	2,345.00	2,355.00	0
	14日	2,330.00	2,340.00	2,345.00	2,355.00	0
	15日	2,331.00	2,341.00	2,345.00	2,355.00	0
	16日	2,274.00	2,284.00	2,304.00	2,314.00	0
	17日	2,241.00	2,251.00	2,325.00	2,335.00	0

＊出来高はロット、1ロットは錫5トン、ニッケル6トン、アルミ二次合金・NSAAC C20トン、その他25トン

COMEX銅建値推移

（単位：ポンド当たりドル、日付はニューヨーク現地時間）

【2023年3月13～17日】　（出来高は枚、1枚は100トロイオンス）

	3月限	4月限	5月限	6月限	7月限	確定出来高
13日	4.0695	4.0580	4.0535	4.0565	4.0590	149,940
14日	4.0105	4.0060	4.0030	4.0065	4.0100	82,561
15日	3.8565	3.8465	3.8430	3.8460	3.8505	155,391
16日	3.8855	3.8705	3.8645	3.8660	3.8700	102,794
17日	3.9135	3.8985	3.8925	3.8915	3.8960	86,741

電子情報通信学会研究会から論文賞

住友電工

住友電工は電子情報通信学会のスマート無線研究会から論文賞を受けたと発表した。同研究会では研究者・技術者が集まり研究発表・意見交換を行っている。論文賞は研究会開が催す一般講演で、最も優秀な研究発表を行った発表者に授与される。

受賞対象となった論文は同社伝送デバイス研究所の前畠貴氏が、東北大学の末松憲治教授とともに発表した「バンドパスデルタシグマ変調器の時分割多重と並列化」をテーマにしたもの。研究内容は第5世代移動通信システム（5G）などで求められる、高速通信を実現するための無線機の小型化に寄与する。

「エコアクション21オブザイヤー」ソーシャル部門で「銀賞」受賞

坂口製作所

アルミ・ステンレスに特化した板金・溶接・組み立て加工業者、坂口製作所（本社・大阪市西成区、社長・坂口清信氏）はこのほど、「エコアクション21オブザイヤー2022」ソーシャル部門で銀賞を受賞した。エコアクション21は、環境省が策定した日本独自の環境マネジメントシステム（EMS）。

「オブザイヤー2022」は、「エコアクション21」の認証事業者を対象に、環境経営レポートおよび社会課題解決につながる取り組み（地域への積極参加、働き方など）を顕彰することで、脱炭素社会の実現、SDGsの達成に向けた中小企業における多様な取り組みを国内に広く発信するとともに、こうした動きを加速化させることを目的としている。

坂口製作所は「地域に若者を!廃校になった小学校を独身寮として活用するプロジェクト」というタイトルでソーシャル部門にエントリーし、銀賞に選ばれた。表彰式はあす25日、TKP品川カンファレンスセンターで開催される予定。

寧徳時代と長期電池箔供給契約

中国・江蘇鼎勝

中国・江蘇鼎勝新能源材料は22日、寧徳時代新能源科技とリチウムイオン電池向けアルミ箔の長期供給契約を締結したと発表した。江蘇鼎勝と子会社の杭州五星鋁業、内蒙古総晟新能源材料の3社が出荷する。中国国内だけでなく、2024～26年の3カ年では、寧徳時代の海外工場向けに江蘇鼎勝の欧州拠点「ヨーロピアンメタルSRL」が電池箔を供給することも再確認した。

昭和電線グループ3社

「健康経営優良法人」に認定

昭和電線グループ3社は「健康経営優良法人2023」に認定されたと発表した。認定制度は地域の健康課題に即した活動や日本健康会議が進める健康増進の取り組みを基に、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰するもの。

今回は、昭和電線ホールディングスとその傘下の主力事業会社である昭和電線ケーブルシステム、物流関連事業を展開するロジス・ワークスが認定された。

昭和電線HDと昭和電線ケーブルシステムは上位500社が顕彰される健康経営優良法人ホワイト500として初めて認定された。

昭和電線グループでは健康経営に向けて、意識改革や保健指導の推進、働き方改革など多角的な取り組みに注力している。

「健康経営優良法人」に認定

リョービ

アルミダイカスト大手メーカーのリョービは「健康経営優良法人2023」に認定されたと発表した。地域の健康課題に即した活動や日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を、経済産業省が評価・認定する制度。同社は4年連続で認定を受けている。

同社では2018年に「リョービグループ健康宣言」を策定し、社員が健康でいきいきと働ける環境づくりを推進。社員の健康課題を踏まえた具体的な取り組みなどが認定につながった。

JOGMEC

ニュース・フラッシュ

石油天然ガス・金属鉱物資源機構

ペルー：チリCESCO、ペルーの海水淡水化プラントや廃滓再利用について報告

2023年1月24日付け現地報道によると、チリCESCO(Centro de Estudios del Cobrey la Mineria)は、アンデス地域における持続的鉱業への移行における課題や機会の特定などを目的として、複数の専門機関と作成した調査報告書「Cinco Nichos Socio-Tecnologicos Criticos para una Mineria Sostenible en la Region Andina(アンデス地域の持続可能な鉱業のための重要な5つの社会技術的なニッチ)」を公開した。

チリとペルーにおいて海水淡水化プラントは水ストレスや気候変動への最適な対応策として増加傾向にあると報告した。

ペルー・エネルギー鉱山省の報告書「Cartera de Proyectos de Inversion Minera 2023(鉱山投資プロジェクトポートフォリオ2023)」によると、ペルーではTia Maria銅プロジェクト(Arequipa州)、Pampa de Pongo鉄プロジェクト(Arequipa州)、Shouxin精鉱プラント拡張プロジェクト(Ica州)、Bayovarリン鉱石鉱山拡張プロジェクト(Piura州)、Los Calatos銅プロジェクト(Moquegua州)の鉱業プロジェクト5件で海水淡水化プラントの導入が予定されている。

CESCOの報告書では、海水淡水化プラントの数が増加するにつれて、同一地域や流域内で水資源供給計画や関連投資の連携・調整を行い、プラントや関連インフラを共有する機会が生まれると指摘されている。

また同報告書は、サーキュラーエコノミー実現のための廃滓利用についても触れており、ペルーでは2030年までに約4.49百万トンの廃滓が発生し、このうち0.15%の銅品位を有するものが6,736トンで、そこから最大10%(674トン)の銅を回収できるとの試算を示した。

（2023年1月30日　リマ　初谷和則）

……

ペルー：Scotiabank、2023年の鉱業投資額は前年比11～20%減少と予想

Soctiabank週次レポート(2023年1月23～27日)は、鉱業セクターにおける反政府デモの影響について、2023年の国内銅生産の約1%がリスクに晒されているほか、鉱業投資は一層下落する可能性があると報告した。

銅については、2022年は南部鉱物輸送道の頻繁な封鎖等により8月まで月間生産量が2019年のレベルを下回っていたが、Quellaveco銅鉱山(Moquegua州)の操業開始により9月以降は本レベルを上回る生産を達成したと報告した。

しかし、2023年1月は反政府デモの影響により南部の鉱山を中心に生産活動に深刻な影響が出ているとした。このうちAntapaccay銅鉱山(Cusco州)は2023年1月21日に操業を停止し、Las Bambas銅鉱山(Apurimac州)は前年からの道路封鎖の影響で3カ月分の精鉱が未出荷の上操業停止のリスクを抱えるほか、Constancia銅鉱山(Cusco州)も精鉱輸送ができない状態にあると報告した。

錫については、国内唯一の錫鉱山であるSan Rafael錫鉱山(Puno州)が段階的な減産後に2023年1月12日以降操業を停止しており、77トン/日の生産が失われているとした。

金については、2017年頃から資源枯渇による減産が続き、昨今の争議が下落傾向を後押しする可能性があるとした。

鉱業投資については、新規プロジェクト不足により投資額が減少傾向にある上、2022年の鉱山建設開始が予定されていた7件のプロジェクトのうち実際に建設を開始したのはSan Gabriel金プロジェクト(Moquegua州)1件のみであったと報告した。

また、これらステージの進んだプロジェクトの遅延が投資額の下落要因になっているとし、2023年の投資額は前年比最低11%減、仮に建設を開始するプロジェクトが皆無の場合は20%減少するとの見通しを示した。

（2023年1月30日　リマ　初谷和則）